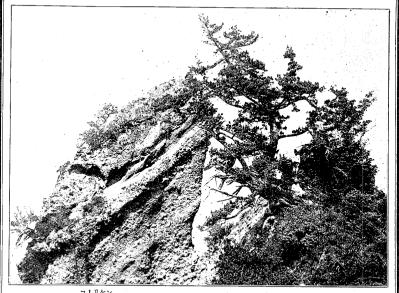
## )植物家佛醫サヴァチエー氏ノ事蹟補遺へノ追加

千葉醫學專門學校醫學士 今 井 忠 宗

phonia Savatieri, HARIOT. ヲ加へ nat. et math. de Cherbourg, 1891.)」トシサヴァチエー氏ノ歿年即西曆千八百九十一年(我明治二十四年)ニ佛國 HARIOT. ヲ加へ farinosa, IAMX. 等ヲサヴァチエー氏ガ横須賀ニ於テ採集シタリトナスモ右ハ何レモ同地附近ニ其存否全ク不明 集セシモノト思惟シ産地ヲ横須賀トナシタルヲ以テ後學ヲシテ惑ハシムルコト少ナカラズ、例へバハリオー氏 Gigartina prolifera, Hariot; Polysiphonia Savatieri, Hariot; Polysiphonia yokoskensis, Hariot. 等數種アリ、然 餘種アリ)ハ總テハリオー P. HARIOT 氏ニ致シ同氏ハ之ヲ「サヴァチエー氏ヨリ得タル日本横須賀産海藻名 ルニハリオー氏ハサヴァチエー氏ガ日本各地ヨリ採集シタル標本ノ大部分ヲサヴァチエー氏ガ横須賀ニ於テ採 ニ於テ公表シタリ、其中新種トシテ Bonnemaisonia hamifera, Harror; Dictyopteris polypodioides, Harror; (Gigartina punctata, (Sur.) Hartot et Var. flabelliformis, Hartot; Gigartina prolifera, Hartot; Melobesia - シテ其確タル産地ヲ詳ニセザルガ如シ Hariot, P.—Liste des Algues Marines rapportées de Yokoska (Japon) par M. le Dr. Savatier (Mém. des Sc. サヴァチエー氏ガ自身及ビデュッポン氏等ヲ煩ハシテ採集シタル植物標本中藻類(記載詳細ナルモノ五十 ●四 『引證』 ノ中へ 岡村金太郎、日本藻類名薬(第二版) 大正五年 ●Ⅲ『横須賀ヲ植物ノ種名トセルモノ』ノ中へ Polysiphonia yokoskensis ●11『サヴァチエー氏ヲ植物ノ種名トセルモノ』ノ中へ Polysi ヲ加フ

**〇朝鮮産松柏類ノ種類ト分布**(承前)





欝陵島南陽洞ノ海岸ノ嚴上=生ズルいぶき (Juniperus chinensis LINN.) ノ老樹ナリ、大正六年余が同島ヲ囘リシ時目撃セシモノヽ 最大樹ナリ、側=在ル人ト其大サラ比較スベシ

ŀ

州

欝 サ 中

陵 ^ 阈 jν

島

除

N

殆

ン

F.

全道

=

y 廣 Ш

抱 支

1

ア

ねず

Æ 余 多

亦

分布

最

那 1

九 モ

州

古 ズ ッ

栽

植

3 氣

鄉 香

里

口

=

來材

在 Æ

=

過

ギ

ハ

香

= =

用

ス今

ッ ŀ

 $\mathcal{F}$ 

IJ

陵

ハ

ŀ

ア

IJ

鉛

筆

材 日

セ 減 衙

民

雖

人

近

キ

難

キ

海岸

巖 ク

角 伐

上 テ

綟

タ ŀ =

w

堂 雌

花

毬

城

附 直

掘

IJ ス ケ

シ

ヲ

購

Ŀ

京

城

佛 7 在

國

天

主

S

ď

ね

鮮 個 ŋ

人

ガ 亦 北 ٧٠,

近徑

往 島

4

尺

= ヲ IJ =

來 達

庭 ナ ク咸 12 栽山 MAYR 氏 4 **ヱ**. ョ 鏡 が 3 シーリ 老樹 南北 IJ ナ 流 ŧ 小 IJ 道 域 9 **シ** 葉 余 = ハ 百瓦 多 北 ハ ね 未 Ť ク 部 <del>'</del>ヲ 特 B ダ 3 其自 樹 = IJ 豆 林 短 徑 0 滿 生 = ク モ林 生 日日 雄 江 亦ノ Ŀ. ジ ヲ 花 平 見 毬 四如流 安 尺 キ ズ 夥 南 球教 ハ 形會京多部合 達 延 北

長白道

Ш

炒

數頭

家 ゝ 山 到 島 w IJ Ш 處 掘 取 = 生 原栽 テ ジ 中 市 ユ 巨 却 = - 井 灣 樹 テ 京 畿 山 グ 猛 地 ヲ 道 以 Ħ 4 テ 京 밂 ク 進 城

名ヲ下 始 リ金剛山上ヲ經テ北部ニハ到ル處ニ分布シ鴨綠江上流大森林ノ主要樹ヲナス特ニ朝鮮五葉ノ セ V Æ davurica 間 . = ハ中間形多ク殆ンド 區 四別シ難: + æ ナ IJ

平安北道東郡江東邑=在ルねず (Juniperus rigida, Sieb. et Zucc.) ノ大木ナリ

南 減退セシ 智異

日所謂鴨綠材ハ殆ンド本品 ニ限ラル、ニ至レリ てうせんはりもみ ハ威南

北部咸北ノ西部並ニ其反

再ビ來朝シ其 P. Koyamae テP. Schrenckiana タルコ obovata ヲ用ヰ余モ亦之ニ 彙ニハ其名ヲ載セリ近時 傚ヒシガ Wilson 氏來朝シ 對側ノ滿洲地即チ十九道溝 ヲ極論セシ結果改訂植物名 やつがだけたらひ)ニ同ジ リ帽子山方面ニ生ズ學名 Komarov 氏 、 Picea 氏

朝鮮産松柏類ノ種類ト分布

(承前

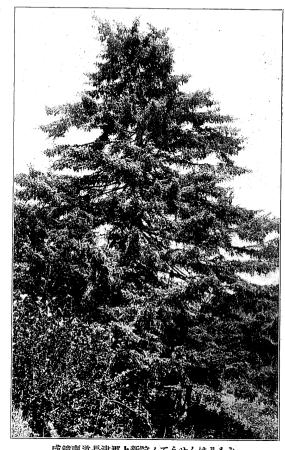
obovata ハてうせんはりもみ又ハやつがだけとうひノ大形品ニ類セル者ヲ生ズル事モアレドモ

リP. obovata 幷ニ P. Schrenckiana ハひめばらもみ樣ノ葉ヲ生ジ特ニ後者ハ一層長ク常ニ二珊ニ超ユ又毬果

力説セリト雖モ共ニ非ナ

P. Schrenckiana

Ħ ŋ 至 IJ 枝色一層赤ク葉 テ 其三分一ニ過ギ ハ太クシラ且密生シ其先端ハ丸ミ多ク毬果ノ鱗片薄キ ザ w 屯 1 ヲ生ズやつがだけとうひ ١٠ 最 屯 近似 7 種 ヲ Ĺ ラ直 相 違 兩 + 種 毛 てうせん ヲ 區別 3 得 は



六十尺許アリ其下ニ見コルハ山神ノ祠ナリ

funebris ノ名ヲ與ヘシモ

リ又 Plantae Wilsonianae

ハ P. sinensis ヲ用ウレ

 $W_{ILSON}$ 

氏自ラ

Æ

其

Komarov 氏六之: Pinus

二遼島半島二及

~

超

土

テ満洲 濟州島

ツ鴨緑

江

あかまつ

۸,

分布

廣

y. 最モ

北

國境

ヲ

實物ヲ見

ルニ及ン

デ

余

說

同

意

セ

y

但シ 奉天北陵

滿洲

Æ

鵬

成鏡南道長津郡上新院/てらせんはりもみ (Picea Koraiensis, NAKAL)ニシテ樹/高サ 流域幷

其樹ラ觀察シ又標本ラ大學へ携へ來リテ余ト共 くろまつ狀ナリ んしうくろまつニシテ其 此 松八鴨綠遼河 三號ノ歐文際 兩 江 研

松

いあかまつト

異

ナル

女

江流域幷

=

照多

鮮

農林 タ jν

授植木秀幹氏ハ夙

= 詳 細二

結果 朝

/ 其新 總督府

種

ヲ發見シ 門學校教

斯

=

Pinus mukdensis ノ名ヲ

附や

y

Wirson 氏ノ談

=

依

 $\nu$ 

賣葉。

濕潤ヲ隔

ッ . پ

が能象

記二

柊葉

ŀ

37

物腐敗

シ

権終棄

프

ーテ之ヲ

藏

之ヲ

瀹

レバ 康熙字典

蔬ニ充ツベシ

,

ゴロ町

以テ参茸

等ノ

/ 物ヲ.包

取此群芳名實稱<sup>°</sup>

鑽凍、 す。

李時珍日ク冬、

ŋ

/ 百草

此レハ氷雪ヲ顧ミズ最モ春ニ

孝子傳ニ尹伯奇、

停花ヲ采リ以テ食ト爲ス註

先ンズルナリ故ニ

世ニ此ヲ鑚凍ト

フ

**楟花充蔬** 

柊葉裹粽

抵冬、

青帝休教落異

迎春放

ナリ寇宗奭日

一停花へ即棠梨花

ナリ春開

ク采リテ曝シ乾カス

1

家園ニ産ス草本、

形へ

芭蕉

如

3/

ハ

季凋

ズ南 葉

越 筀 ヲ

南方地

端凹 水嶺 メ 別 モ 於 本種 テ ナ ۱ر 赤松ト ハ突起シ且著シ 接觸混 (未完) 生 キ刺アリ又 P. sinensis ノ葉ハ多クハ三葉ナレドモ本種ハ二葉 ス同 氏 ハ之ヲ sinensis -)ij ŀ 主 張 ス 1. ŧ sinensis ノミナ 毬 果 ル等ハ ۱۴ 其鱗片 最 先 モ

求 (承前) セラレタ故ニ本稿ハ是レ以後本誌ニ顯ハレナイコトニナッタコトヲ悲本題ノ著者松田定久君ハ不幸ニシテ喉内ニ病ヲ得大正十年一月十六日 田

「名花交叢」玫瑰ニ笑刺道人ノ稱アリ、 [錦字箋] 尹旋津ノ詞ニ凄凉夜。 [花曆百詠]

茱莉涛夢

席杳杳。詩魂真化風蝶。冷香清到骨。夢十里。 詩二三陽初轉一枝開。迓得東風草未胎。出色曾經窓下雪。含香不亞嶺頭梅 尤宜喚作百花魁。、〔羣芳譜、 氷下ニ生ズ故 三顆凍ト名ク後人訛テ欵冬ト爲ス欵ハ至ナリ冬ニ至テ花サク 梅花雪。 藥譜」 本草綱目ニ欵冬ノ一名ハ欵康、 迎春經雪 欵冬鑽凍 黄裳早合稱

イフ者アリ狀ハ芭蕉ノ如 シメバグ 植物名實圖考、 スレ ク 、ヲ經テ壌 ۱۲ 、葉濕フ時以ラ角黍ヲ包ミ乾ケバ以テ物ヲ包苴シ缸口ヲ封ス蓋 久 ヘヲ 持ス可シ 山草類〕 v ズ本 ノ高サ約 即土ニスル千年壊 柊葉ハ粤東 |二三尺葉ノ長サ尺許青色ニシテ四

卷成片片似芭蕉。 子ヲ理 柊葉ヲ謂 メ光澤アラ €/ L ルニ粤中、 ノ用ヲ爲 古柏作棟 ス ٠٤ 柊ヲ多トス廣州竹枝詞 韻府、 杏梁」長門賦 ニ云フ五 ニ刻木蘭以爲 一月街

%レズ柱

礎

ノ上柊葉ヲ以テ之ヲ

٠\<sup>١</sup>

花 木 求 (承前